

町連協だより

千歳市町内会連絡協議会

平成十五年 定期総会開催

千歳市町連協は、五月二十四日(土)千歳平安閣に於て、市内七十一名の町内会長が出席し、定期総会を開催した。

会議に先立ち、藤原会長は挨拶の中で、町連協の抱える基本的な課題や本年度の運営の重点等と話された。「人間関係の希薄化、弧立化が進む中、町内会の果たす役割は、益々重要になってきている。そこで町連協は、各町内会相互行政、関係機関の連携強化を図る中、一人の不幸をも見逃さず、安心して住める明るい街づくりを目指して推進していきたい。そのためには、町連協組織の見直し、生活安全への取り組みを進めたい」と強調された。続いて、白樺

町内会長塚原義孝氏を議長に選出、議案審議に入った。鳴海総務部会長、町連協事務局等により提案された平成十四年度事業報告、収支決算報告を承認、続いて平成十五年事業計画収支予算案を慎重審議の末、全会一致で承認した。

平成十五年の事業推進の基本方針として「明るく、楽しいふれあいのある町内会をいかに進めるか」を掲げ、全組織を上げて取りくむ。特に町内会役員等研修会の充実、防災意識の定着化と組織づくりの推進、情報収集を生かした青少年健全育成、地域特性を生かした福祉活動の強化、心のふれあう明るい家庭づくりをめざした婦人部活動の活

活性化等が提案されている。

次に平成十五年の補充役員(理事)案が提案され、満場一致でこれを承認し、新たなスタートをきる事になった。

課題山積する町内会活動を活性化させるためには、協調と信頼の醸成が基盤となる事が確認された。

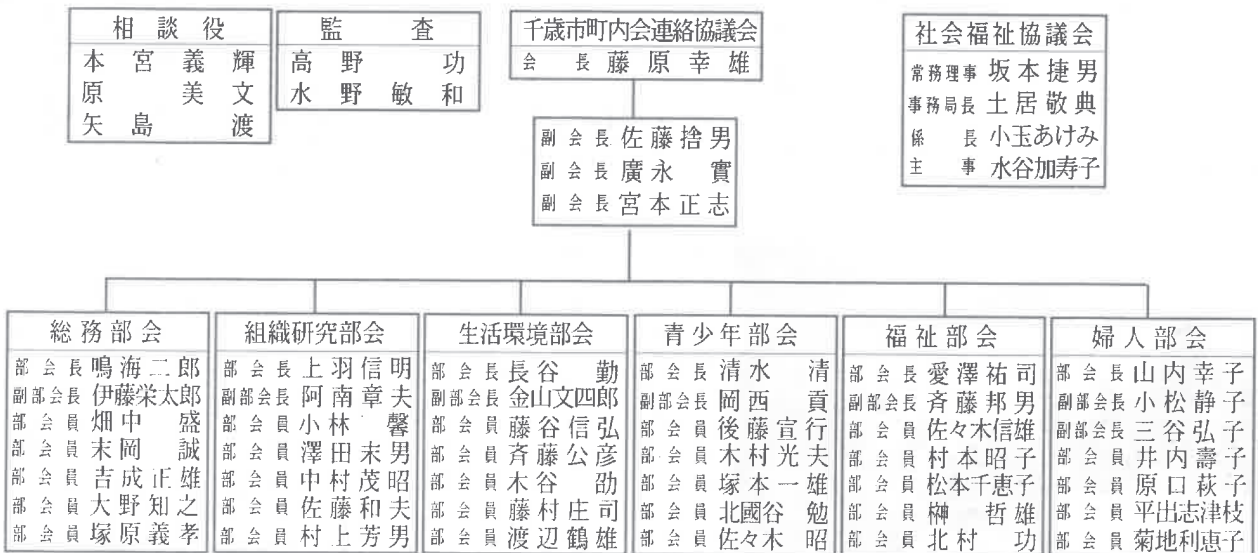


(平成15年度町内会連絡協議会総会)

第13号
 平成15年7月1日
 ◆発行◆
 千歳市町内会
 連絡協議会
 千歳市総合福祉センター
 TEL(0123)27-2525

◆印刷◆
 道央プリント
 千歳市青葉6丁目1-8
 TEL(0123)23-5535

千歳市町内会連絡協議会組織図 (平成15年度)



町内会のご紹介

● 明るく・楽しく 仲良くをモットーに

● 寿町内会

会長 山内 貞

始めに、町内会発足について紹介させて戴きます。

寿町内会は、昭和四十年に祝梅団地町内会として、発足しました。

その後、年々宅地化が進み、昭和四十九年に市施行による「祝梅土地区画整備事業」がスタートし、快適な住環境が

完成されました。

昭和五十六年十月に住居表示により、寿・弥生・梅ヶ丘の三町が誕生し、この新たな町名を機に、昭和五十七年四月より、祝梅町内会は、発展的に解消され、寿・弥生・梅ヶ丘に一部編入して戴き新たな町づくりに、各々町内会が再出発しました。

寿町内会も昭和四十年に祝梅団地町内会として発足してから、三十八年になり成熟した町内会として、活動しております。

この活動につきましても、今まで多くの先輩のご苦労とご協力の賜ものと確信し、深く感謝しております。

寿町内会も現在人口約一、六〇〇人、六二〇世帯と大きな町内会に発展し活動しております。又、大きな事業等につきましても、寿官舎町内会（二八〇世帯）と連携し、合同で事業を展開しております。少子高齢化に伴い、平成十四年度からは、子供とお年寄



● 心意気 ふつとばせ会・誕生

● 緑町一丁目町内会

会長 山崎 文雄

私達の緑町一丁目町内会は平成五年頃までは約百世帯前後でした。N.T.T、伊藤木工

場住宅だけでも六十世帯もあり、何をやっても賞賛と誇りの的でした。現在は五十一世帯、会費は月三百円、当時の

役員の面影無く、N.T.Tは封鎖。木工場全体解体。今はツ

ルハ薬局、北前船、多目的広場と化し。子供盆踊りもあまりの子ども減少のため中止となりました。

現今の新興住宅街町内会の発展を見るにつけ、当時は思い起こすとき胸の痛みを感じます。何はともあれ、町内会は無くしちゃあかん。

老人の多い我が町内会、ありったけの力を出しきろう。やはり娯楽です。

今までの苦勞の見返りとしても、やはり笑いと語り合いの楽しみがあるからこそ「俺がやらなきゃ」・・・の心意気も生まれる。



りのふれ合いの場を設けております。年に四回、「おしゃべり会」と称し、昔のあそびや、ゲームなどを楽しんでもります。

秋には、秋の収穫大運動会として、祝梅小学校の体育館を借り、老若男女が約一五〇名から二〇〇名の参加でふれ合いの場として楽しんでおります。

今後、町内会活動につきましても、会員の皆様のご協力を戴きながら、「明るく・楽しく・仲良く」をモットーに活動してまいります。

最後に、この紙面で寿町内会の紹介の機会を戴き、深く感謝申し上げます。

そんなな訳でちつぽけながらも行事を一つ増やしました。「ふつとばせ会」です。大した面白くもない世の中。上を見ればきりが無い。横を向いたら君がいた。老いも若きも笑って唄って、爺も婆も天下泰平、ジーンズ汗と遊ぼうよ。

九十五才の老人を交えて大はしゃぎ、大黒舞も舞い込んで。昔なつかし文句。

「一に俵をふんまいて、二にニッコリ笑うて、・・・」明治生れの曰く、「若い者でなければ出来ない事がある。だが年を取らなきゃわかんない事があるぞ」と老いながら





も好きなことを言い、語った後の嬉しい顔、顔…こんなちっぽけな事が何十年間の苦勞を忘れさすなんて…お金に代えられない人生觀が浮きぼりにされた。

お金が無い町内会でありませんが、資源回収の益金と汗と涙の町内会費でまかないました。

各町内会でやることは違ふでしょうが喜ぶ気持は同じだと思えます。これが町内の活性化、老人福祉の生きがい。ふれ合いのある町内会、心のわかち合える住み良い安心して暮らせる町内会の基本として続けて行きます。

我が町内会

清流町内会

会長 力示武文

清流町内会は、平成四年に根志越第三土地区画整備事業によって生まれた町内会であります。

町内会設立にあたって、最初に行ったのは町名を決める事でした。その為に町名委員会を設け、町内の皆様から町名を募集し、沢山の応募の中から千歳川の清流に位置している事から「清流」と決まりました。その次に町内会館がない為に、会館建築に取り組みました。土地は、千歳市の協力により購入するはこびとなり、建築費用については市補助金、町内会員の負担と借入金によるものでした。借入金返済期に於きましては、町内の活動も厳しいものがありました。平成十四年度で返済も終了致しましたので十五年度の予算からは多少活動費も増やすことが出来、更に活動の幅も広がると思えます。現在の主な活動内容として、



少年消防クラブ、少年野球、夜回り月二回実施、年二回のパークゴルフ大会、清流夏祭り、ボーリング大会では、家族揃って参加できる行事として、又第二小学校の生徒達と親和会老人クラブとの花壇作り、餅付き大会等の交流も持たれております。町内会の重点目標として福祉活動、青少年育成等を上げています。新興住宅街でありながらもまとまりのある町内会を目指して行きたいと考えております。今日現在の人口数は、八五〇世帯、人員二、三〇〇人、会員数七九〇戸です。その中でふれ合いのある安心して住み良い町内会づくりをしていき



たいと考えております。最後になりましたが関係機関のご指導とご協力をお願い申し上げます。

町内会自主防災組織づくりを進めましょう

町連協では、平成九年度より組織研究部(上羽信明部会長)を中心として、町内自主防災組織づくりを進めて参りました。これは、平成七年一月に発生した阪神・淡路大震災の折、地元の町内会自主防災会が多くの人命を救ったという教訓に基づいて、私たち町連協も自分達の町内会の住民の貴い生命は町内会で守る、

という願いを込めて活動を始めたのであります。

しかし、昨年度の調査では、市内の各町内会における自主防災組織の結成率は低く、また、災害に関する危機管理意識もあまり高くないことが分かりました。

それで、本年一月の理事会でも検討しましたが、更に、未結成町内会に自主防災組織づくりをお願いする事にしました。

私たちは「千歳市を、安全で、住み良い、災害に強い街」にしたいと考えております。

災害に強い町内会を作るには、一人ひとりが日頃から自主防災の意識を持つて、町内の安全性を考え、災害の発生時には的確に対応できる基礎知識を身につけることであると考えます。

大きな災害が起きますと道路は寸断され、ライフラインは使用不可能になります。

「災害は忘れた頃にやってくる」とは、使いふるされた言葉ですが、一日も早い自主防災組織を結成して、安心して生活できる町内会にしたいものです。

単位町内会のみでの自主防災組織ができない時は、隣接する町内会との合同での結成も可能です。町内会自主防災組織ができましたら、それぞれの地区を単位にした連合組織をつくり、更に市の防災会と結合して全市的な組織にしたいと考えています。

●平成十五年度役員等研修会●

災害に強い町内会づくり

□有珠火山の災害に学ぶ□

- 日時 平成十五年十月十一日(土)午後一時
- 会場 千歳市民文化センター四階大会議室

平成十年度より実施して

います町内会役員等研修会は、本年度で第六回になります。第五回までは分科会方式で、六部会を二年間に分けて三部会ずつ開催して参りましたが、本年度は、参加者が一会場に集り、講師による講演と、会場の参加者による討議を主に研修をしたいと考えております。

会場も、千歳市のご厚意で市民文化センター四階の大会議室を用意致しました。研修テーマは「災害に強い町内会づくり」をいかに進めるか、

町内会に自主防災組織をつくることには様々な困難もあるかと思いますが、実際に自主防災組織を作り、避難訓練などを実施している町内会などの資料や自主防災組織づくりに関する資料は事務局にありますので、ご希望の町内会は事務局までご連絡下さい。

に決定しました。

講師は、平成十二年に発生した有珠火山による災害に遭われた虻田町連合町内会長伊藤博氏に決定し、災害発生時の町内会の対応と、避難所における問題点と対処の仕方をお学びたいと思います。

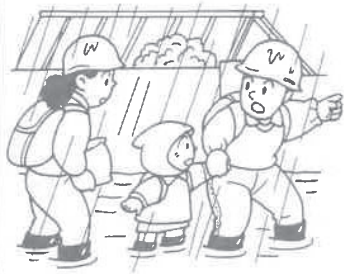
新聞によれば、道東では、関東大震災規模(M8)の地震の起きる確率は、三十年以内に六十%であると発表されておりあります。

町連協では、安心して住める町内会づくりを目指しており、地震などの災害に対する

危機管理意識を高め、町内会は自分たちで守るという心構えを作るために、研修を重ねて、被害を最小限に食い止めるための努力をしたいと考えております。

研修会の参加者については、今年度は、町内会員であれば希望者は自由に参加できるようにしたいと思います。

研修会の詳細につきましては、今後総務部会で決定次第、理事会の承認を得て、各町内会を通じてご連絡いたします。多数の参加を期待しています。



生活環境部会だより

四十名参加、一セコ町

道栄紙業等見学する。

六月六日羊蹄山麓をぐるっ

と一周する研修コースでしたが、好天に恵まれ、部会理事らのリードと参加四十名の協

力により、無事終了できました。

◆二セコ綺羅街道

地元商工会事務局長の説明を聞きながら、二セコ大橋の下にある高橋勝義様宅の広大な庭園を愛で、美しいまちなみ綺羅街道二セコ本通り中心街まで散策。各商店の突き出し看板と共に、幅六米のゆとりの歩道に飾られた色鮮やかな草花が、目を癒してくれた。

◆道栄紙業株式会社

工場紹介ビデオ観賞後、集団回収した牛乳パックがトイレットペーパーに変身する工程を見学。質疑では資源回収も大切だが、同時にその再生品を使うことも大切であると説かれた。



編集後記



「町連協だより」第十三号をお届けします。

「人間関係が希薄になっていく今の時代こそ、住民同志の貴重な触れ合いの場として町内会は存在感を増している」とは、相次ぐ町内会に関する投稿を読んだの道新「読者の声」欄担当者の感想です。

人と人との心を繋ぐ町内会の働きが期待される中、その活動に役立つ紙面づくりに心を引き締め頑張ります。

紙面に対する感想、ご意見などをお寄せ下されば幸いです。

編集委員

- 鳴海二郎 伊藤栄太郎
- 畑中 盛 末岡 誠
- 吉成正雄 大野知之
- 塚原義孝
- ◎事務局
- 小玉あけみ 水谷加寿子